

土・人・水

地域用水について

当協議会の最も重要なコンセプトである地域用水は、地域の生活に密着した様々な機能を有しており、農業用水の他、防火用水、冬期間の消雪、雑排水の希釈水など、環境と調和し、住民が水に親しむ空間を作り出している。そうした地域用水を利用した親水施設が市内のあちこちに設置されていますが、各家庭から排出されたゴミが流れ下り、大量に溜まっています。ゴミの中には故意に捨てられた物ではなく、風により飛ばされた物もございいますが、ほとんどが家庭からでる、空き缶、空き瓶、食品の空箱など、生活ゴミなどです。悪質になると、タイヤとか電化製品など、大型の粗大ゴミもありますし、指定ゴミ袋に詰められて流されることもあります。「澄んだ水は地域の宝」といって、河川のきれいな水を切りとって評してみても、街中を流れる水路がゴミだらけでは、何の価値もありません。こういった課題に対処していくには、地域住民の皆様のご理解とご協力が不可欠です。当協議会でも、水環境を未来へ継承すべく、活動に取り組んでまいりますので、ご賛同いただきたくお願いいたします。

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766
www.midorinet-omachi.jp

水路等に大量のゴミが流れてきたなど、お困りことございましたら当協議会事務局の大町市土地改良区（22-5542）までお知らせください。



写真：久保沈砂池でのゴミ上げの様子

暑い日の草刈りにご注意ください



暑い日が続きますが、田畑や自宅等で草刈りや草むしりをする人をよく目にします。お疲れ様です。夏は、雨量が多く、気温も上がる為、草木の成長が活発になり、放置すれば、あっという間に手が付けられない状態になってしまいます。雑草は、害虫にとって快適な生育環境であるため、農作物を育てるには、それらの生育を妨げる要因

となります。また、宅地や田畑に隣接する農業用水路においても、脇から生える草や木枝が通水を阻害したり、草刈り機で刈った草が詰まるなどのトラブルが、再々起きています。ご自宅の周辺、田畑の近くに幅の狭い水路がある方は、水路脇の草木の繁茂、長年放置していると水路内まで草の根が張っている場合もございますので、十分ご注意ください。

夏場の草刈り、草むしりは、なにかと危険がつきまとう作業です。左記を参考に安全に行いましょう。

- ① 作業時間帯は日中の暑い時間帯を避けて、なるべく早朝と夕方に。
- ② 日中に作業を行う場合は、水分補給をこまめに行い、直射日光を避けるために帽子やタオルを着用、冷感グッズを使用する。
- ③ 長時間作業を避け、体調の変化をチェックする。
- ④ 長ズボン、長袖シャツを着用、保護メガネをかける。
- ⑤ ヤブなどが茂った場所では、事前にハチの巣の有無を確認し、危険な場合は専門家に相談する。
- ⑥ 草刈り機を使用する際は、周囲、足元には十分注意する。

西小5年生米作り体験



大町西小学校5年生1クラス32人の米作り体験授業が今年も始まりました。

4月17日に種蒔作業。宮田指導員の話をしっかり聞き、掛土の厚さに注意

しながら、丁寧に仕上げてくださいました。それから約4週間、子供達が温度管理と水くれをおこない、立派な苗に成長させてくれました。

5月9日に代掻き作業。最初は裸足で田に入るのを躊躇する子供も大勢いましたが、作業に慣れてくると、田んぼを駆け回ったりしながら元気いっぱいに作業している様子でした。

5月16日に田植え作業。濃緑色の立派に育った苗をロープの印に合わせて、手作業で植えました。宮田指導員から苗のつかみ方や植え方を聞いて、実践しましたが、うまくいかず大株になると少人数で、大人でも根気のいる作業に困惑しながらも、弱音を吐かず、精一杯作業をしてくれました。これから9月の収穫までにたくましく成長して、秋には立派な穂が実ってほしいものです。当協議会の活動に対しご賛同いただき、毎年種もみをご提供頂いているライスファーム野口さん、学校近くの田んぼをお貸しいただき、作業のお手伝いをしていただいている近所の平林さんに改めて感謝申し上げます。



写真：西小5年生の田植え作業の様子

水路等の溢水にご注意を

一年を通して、6月～7月の梅雨期や、9月から10月にかけての秋雨前線や台風が発生時期は、降水量が増え、増水による河川の氾濫、水路の溢水等の災害が起こりやすいシーズンです。

当地域においては、高い山々に守られ、台風の影響を受けにくいとされていますが、近年はゲリラ豪雨などの突発的な集中豪雨による水路の溢水被害が増えています。我々も大町市や関係機関と協働で被害防止に努めておりますが、ゲリラ豪雨は、通常の雨と違い突発的で予知が難しく、短時間ではあるものの、バケツをひっくり返したような大量な降雨をもたらす為、対策が難しいのが現状です。市内に流れる水路のほとんどは、一級河川から取水しており、途中青木湖導水路の水と交換したり、ため池に貯水しながら市内中心部に流下する為、仮に取水を止めたとしても、未流まで効果がでるには、ゆうに1時間以上かかりますし、途中で操作するにも、増水した箇所での操作となり、安全の確保や移動手段にも課題が残ります。こうした課題を解決する為には、①水門、ゲート、揚水機場の遠隔電動化（24時間どこからでも操作可能なシステム）、②予報・警報の情報収集、伝達の最適化、③判断・対応の迅速化が不可欠です。①に関して令和13年度より稼働予定の寄沢小水力発電事業の売電収入や、補助事業の導入など、大町市や長野県と協議しな

がら、推進してまいります。②、③に関しては、職員・関係機関の各々の努力は勿論、地域住民の皆様のご協力が不可欠です。ゲリラ豪雨が予想される場合、現状降雨がなくても各堰の取水を停止することがございます。この場合においては、ご自宅やお持ちの農地付近の水路が断水となりますが、時間の都合上、通知や周知を十分に行えない場合もございますので、ご理解ください。また、水路詰まりや、水量が多い、水路が低く過去に溢れたなど、溢水の原因になりそうな事案がありましたら、逐次情報をご提供をいただきたくお願いいたします。

大切な地域の水は、農業を中心に、生活の一部として様々な用途で使用されておりますが、時には溢水等の災害の原因になりうる一面もございます。対応・対策を行ううえで、すでにたくさん地域住民の皆様方にご協力をいただいているところですが、これから地域用水と地域の生活を守る活動にご理解とお力添えをいただけると幸いです。



写真：大雨後の溢水の状況(俵町)

西小収穫祭

昨年、11月24日に開催された、西小5年生（現6年生）の収穫祭にご招待いただきました。少し緊張していましたが、児童の皆さんの案内で会場にはいると、温かい拍手で迎えられ、リラックスして着席することができました。児童による司会進行のもと、収穫祭がはじまり、私たちの紹介の後、会食の時間となりました。メニューは、前日の仕込みから児童と保護者でご準備いただいた米作り体験で収穫したもち米を使った手作りのきなこ・ゴマ・あんこの3種類のおはぎと豚汁。味も食感も最高で、最後まで美味しかったです。その後は、児童による「米作り体験の学習発表」が行われました。スライドショーや〇×クイズなど、斬新なアイディアに感銘を受けました。私たちも参考にさせていただきます。最後に「米作り体験の感想発表」が行われ、学習への協力の御礼として手書きの感謝状をいただきました。心のこもった感想や感謝状をいただき、改めて活動の意義を感じ、心から良かったと思えましたし、児童たちとこういった貴重な時間を過ごすことができ、楽しかったです。

4月の種蒔きから始まり収穫祭まで、児童にとって苦勞もあったかと思いますが、仲間と共同作業をする喜び、大勢で味わう育てた作物の美味しさなどが伝わって、いい思い出ができたのではないかと思います。西小の先生方、児童

の保護者の皆さん、児童のみんな、1年間本当にありがとうございました。



写真：収穫祭でふるまわれた料理

第25回 ふれあいイベント 「土・人・水」開催!!

昨年から2年ぶりに通常開催にもどりました恒例のふれあいイベント「土・人・水」を本年度も開催いたします。公園内の景観整備の後、お楽しみイベントとして、イワナのつかみ取り、スイカわりの他、たくさんメニューを企画中です。参加費無料、事前申し込み不要です。夏の終わりの思い出作りに、ご家族・ご近所お誘いの上、奮ってご参加ください。日時、開催場所等は左記の通り。

日時：令和6年8月24日(土)

8時開会(7時30分より受付開始)

場所：大町市平猫鼻越荒沢親水公園
服装、持ち物：作業(1時間程度)

の出来る服装、手袋、魚の入れ物

※小雨決行ですが、大雨中止の場合は、魚を配布いたします。

大町新堰から生まれた飯綱宮堰

いづなみやせぎ

現在は見事な美田が広がる大原から中原、野口北部、北原北東にかけての一带は、200年ほど前までは広大な原野でした。この原野を開発するために「細越」と呼ばれていた日向山の鞍部を掘り割り、鹿島川と交差させ、はるばる箆川から引いた用水が大町新堰です。大町新堰の流末は、当時、町川と呼ばれていた現在の南荒沢堰に合流し、市街地へと流下しています。

大町新堰から分水している用水の一つに飯綱宮堰があります。大原の上流部から大原溜池経由で北原の方向に向かって一直接に流下し、市立図書館の東から竈神社の北側を通って市街地へと流入しています。水路の形状から農地の開発と共に、市街地への生活用水の供給も目的の一つであったことがうかがわれます。

用水の名称に「飯綱宮」が付けられています。本来は「飯縄宮」で、北原地籍へ流入する箇所には飯縄社が祀られていたことに由来します。飯縄神社の本宮は、長野市北東部の飯縄山頂に祀られており、戦国時代には武田勝頼から仁科基十郎が神官に任ぜられ、江戸時代には百石の朱印地（領地）をもつなど家内安全や諸願成就などに広く信仰を集めてきました。

信仰を広めたのは「飯縄使い」とわれる山伏で、用水の開発に関わった北原地区の方々が、用水の守り神として勧請（分社）し、大切にお祭りしてき

ました。明治12（1879）年の「神社明細帳」によれば、石垣の上に1間四方の社殿と高さ1間3尺（約2・1m）の鳥居があり、周囲は森に囲まれていましたが、明治時代末の神社整理によって竈神社境内へ移転されました。現在はその神社跡に「飯綱宮跡」と刻印した石の記念碑が残り、飯綱宮堰に寄せた関係者の願いや想いを今に伝えています。

（文責 荒井今朝一）



昔の飯綱社の描画
（明治12年「神社明細帳」より）



写真：飯綱宮（社）跡に建てられている石碑

第4回ため池の景観整備イベント 「大澤寺ため池」を開催しました。

令和5年10月26日（木）、大町市平小原原地籍の「大澤寺ため池」で、景観整備のイベントを開催いたしました。当イベントは、ため池の再生と銘打って、ため池のもつ景観の美しさや、存在価値を後世に引き継ぐ為に、4年前からスタートいたしました。久保調整池からはじまり、居谷里、大原と続いて、昨年度で4回目の開催となりました。当日は、利水調整を行う、高瀬川上流水利運営委員会の関係者を中心に、地元住民も併せまして、30名程が参加し、堤体の草刈り・ヤブ刈り等の作業を行いました。作業完了後は、各団体からご提供いただきました景品（地元産の米、酒、リンゴの他、企業のグッズ等）がもらえる抽選会を行った他、休憩時間には地元産のサツマイモで作った焼き芋が振舞われました。

古刹大澤寺は、鹿島川の氾濫を鎮めて耕地を開発し、庶民を水難より救済する願いを込め、開創れたと言われています。このお寺の北側に現在の大澤寺ため池の原形である小熊沢の湧水を利用した「勝負池」があり、S28年（31年度）に県営事業により温水ため池として整備されました。このため池は、鹿島川取水越荒沢堰の冷水と小熊沢の湧き水を併せて二度温めて受益地を冷害から防ぐ目的で、地域農業に大きく貢献してきました。

お米づくりを中心とした農業が盛んにおこなわれていた昔は、地域住民が中

心となり、景観整備や機能保全がなされてきました。時代が移り変わり、現代社会においては、ため池の役割も薄れ、その存在は人々の心から忘れ去られようとしています。これからのため池と人が安全に共生し、朽ちることなく次世代に引き継げる様に、日々の維持管理や啓発活動に努めてまいりますので、地域住民の皆様のご協力をお願いします。最後に、本イベントにご協賛いただいた、地元組織・関係企業・自治体の皆様に改めて感謝申し上げます。



写真：大澤寺ため池で行われたイベントの様子

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会主催

第21回「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展

今回で第21回目を迎える子供絵画展ですが、今回は、大町西小と東小の生徒(現6年生)が米作り体験の稲刈りを版画で表現、応募してくれました。どの作品も一生懸命に作業する姿がよく描かれていて、未来の礎となる子供達の気持ちが伝わり感銘をうけました。受賞作品をご紹介します。

会長賞



「いねかり」

大町東小5年生

山岸 瑛翔

理事長賞



「いねかり」

大町西小5年生

金原 穂

佳作



「いねをかつている自分」

大町西小5年生 坂中 一華



「がんばっているぼく」

大町西小5年生 宮澤 瑠生



「いねをまとめる」

大町西小5年生 柳沢 実希枝



「5年生と稲刈り」

大町東小5年生 佐々木 白満梨



授賞式の様子



記念写真(大糸タイムス提供)

ホームページもあります。

水土里ネットおおまち で検索

<http://www.midorinet-omachi.jp>